草田德兵衛君

製品に顯はれた氏の性格
豪家にして伊都一流の酒造家

驕る平家は久しからずと　勤儉節約を家憲とし實踐窮行そのものゝ如く浮薄なる現代農村青年に對する活敎材として推奬する者の一人に草田德兵衛氏がある、氏の家は酒造を業とし健實なる營業の方針は能く氏の性的表現にして當世實業家の如く冒險的投機的企劃を巡ぐらせしこと毫もなく一意專心只家業大切と其業に親しんでゐる、性温良、昔氣質の剛直は偶々世人をして誤解せしむることがある、ソハ氏の眞人物を知らずして皮相の單見謬察に過ぎない人の過ちである、然れども氏の性格は釀造しつゝある製品の上に顯はれ品質の優良なる贅言を要せざる程に其釀造には吟味してゐる、巷間尋常の酒造家の如く外面的賣名方法を好まず私に品質本位を主として其販路を開拓しつゝある、氏儉なりと雖も吝ならず公共事業に對しては常に私財を投ずる弊履の如く爲めに眞に氏を知るの人々は氏の德望を推賞するや切なるものがある氏の人格や亦尊敬すべしである勤儉貯蓄の奬勵されつゝ當時に於て氏を見る縣民の範たるに足る、現住所伊都郡笠田町

前北海道長官

土岐嘉平君

氏は那賀郡山崎村の人、和歌山中學を經て京都三高法學部に入り卒業して法學得業士の稱號を得明治三十一年判檢事及辯護士登用試驗に合格し直に司法試補に任ぜられ同卅四年東京帝大政治科を優等にて卒業して法學士となり後内務省に奉職し傍ら中央大學及東京高商の囑托講師となり同年高文試驗に合格卅六年山梨縣參事官を振出しに翌年内務省書記官に轉じ土木局道路課長兼治水課長となり次で大阪府内務部長を經て高知、廣島、石川等の縣知事に歷任し榮轉して北海道長官となりしも今年の政變に際して野に下る。

熊野財、政界の花形

中谷利一郎君

清濁併せ呑むの雅量を有し
仁俠に富む親分氣肌の紳商

熊野三千六百峯、靈氣のめぐる處、古來より幾多の偉物英才を出して居る、我が中谷利一郎氏の如き正に其一人である、氏の家は代々仝地方に於ける富豪で無盡藏と稱せらるゝ熊野連峰中多くの森林を所有してゐる斯る豪家に嗣子たるの氏は性來の親分氣肌に思ふがまゝ財界に政界に其双翼を延ばし氏の出所進退如何は熊野財、政界に動搖を來す迄に一大勢力を釀成してゐる、氏は清濁併せ呑むの雅量と仁俠を有し、其意氣軒昂たるものがあり政治家としての氏は町會議員の席に列し一派の主將として町會に覇を唱へ常に町政を見る眞に公正明大、又實業家としての氏は中谷銀行を主宰し地方金融界の鍵錠を握り健實なる經營の方針は能く熊野財界に安定を與へ而して直接間接に同地方商工業の開發に貢献した今や銀行の合同なるや之れが取締役となり專念之れが發展に狂奔してゐる、亦公共事業に志厚く常に社會を益する功績少からず、爲めに信望日に敦く令名月に高まつて行く、氏は慥に熊野財政両界の花形として異彩を放つてゐる、現住所東牟婁郡新宮町

奮鬪努力の權化なる

玉置吉之丞君

回瀾起倒の事業獨り政治家に存するに非ず獨り經濟家に存するに非ず、澤々の勇氣、烱々の眼識卽ち相照して相異ならず、地を換へて然るもの實業家たる氏に於て是を見る、氏は明治十九年海草郡内海町吉田萬右衛門氏の息に生る、氏は幼少より既に雄圖を抱き將來の成功を夢見て遠く海外に遊び數年の後歸朝して玉置家に入りしは年僅に廿三歳の時であつた、明治四十四年獨力玉置綿布工業所を設立して以來日夜奮鬪努力の甲斐ありて漸く成功の端緒を得、大正八年一月遂に資本金百萬圓の玉置綿布株式會社と改稱するに至つた、

氏資性溫厚着實にして仁俠に富む、商機を見るに敏、一度外交に口を開けば其縱橫無盡の商略に長けたる寔に實業界に於ける天才と云ふ可し、加之語學に堪能である、氏は又公共事業に盡す處多く大正七年居村に五千圓を寄附せる世人遍く知る處である、令閨縫子夫人は養父文吾氏の令妹にして三男一女を擧ぐ、氏は前途洋々たる好個の新進實業家たるを失はない、現住所海草郡内海町。

智囊の人—謹嚴の人

有地光之助君

沈默寡言にして豪膽磊落小事に抱はらず末節に泥まず如何なる難事に遭遇するも泰然自若喜怒色に現はさず能く人を容るゝの稚量寛く大事に臨んで堅忍不拔果斷流るゝが如く而も和歌山市會議員中否和歌山實業界中の智者を以つて自他共に許せる有地光之助氏は明治八年九月亡父芳之助氏の男に生れ小笠原譽至夫氏有地榮三郎氏等の兄弟がある、氏の原籍は元市内六番丁であつたが明治卅九年三月現在の場所に本籍を變更した、實業界に於ける氏は氏獨て其任にある侃諤の論議を爲すに非ざるも惟幄の内に在りて能く謀事を廻ぐらし以つて自己の意見を徹底せしめてゐる、先妻春子夫人との間に長女貞子長男利男次男寛の二男一女ありしも破鏡の歎あり現夫人は同市北田邊町高城氏の令妹澤子で大正五年娶つた伉儷睦まじく家庭圓滿

特の智囊能く機を見るに敏なるを以つて他人を利し又自己を利せしめ今や和歌山市實業界中の重鎮たり、更に公職としての氏は市會議員に當選すること四回今現に之れが議席に列し

世界的美術骨董の鑑賞家

三尾邦三君

我國美術骨董界の大立物春海商店專務三尾邦三氏は和歌山市小松原通り三丁目彦右衛門氏の長男に生れ號を春峯といふ、家代々酒造業たりしも維新後家運衰へ傳來の家寶を失ひしが人間宜く實業家たるべしとの志を立て歳十一にして上阪し先代春海藤次郎氏に仕へた天禀の商才と烱眼は能く店主の認むる處となり用ひられて遂に同店の柱石たる現今の地位をかち得た、天下の名物珍品は總て氏によりて評價さるゝ程の鑑識を有し斯界の第一人者として決して他の追隨を許なさい曩年歐米に遊び其聲名海外に謳はれ一躍世界的美術骨董の鑑賞家となつた氏は目下巨額の財を有し、

現籍地に宏大なる土地を購ひ住宅を建て松雲莊と命名し嚴父を住はせて老後の悅樂を與へてゐる資性豪膽豪放仁俠に富み養老院孤兒院に千金を投し或は大阪朝日新聞社に飛行機春海號を寄附し或は名所根上松の保存費を寄附せるなど公共事業に盡せる功勞尠からずと、身空拳赤手にして今日の富を成す又偉也と謂ふべしである

成功した輸出入業者

堂本嘉市君

汚風滔々道義地を拂つて又見るに堪へざる我國現在の實業界にありて巍然として心清の高潔なる玲瓏一點の曇りなき秋月の如き一種清新の氣を放つ者に堂本嘉市氏があり、氏は明治十三年六月那賀郡田中村大字東大井亡父吉之進氏の長男に生れ京都同志社中學を卒業後大實業家たらんとし私に決する處あり單身渡米した、而して米國商業學校に學ぶ事數年の後同校卒業と共に同地商業界を視察し歸朝した大正五年十一月我國商業の中輸出し亦鉄力板瓦斯管鐵板等の輸入取引をなし之れが代表社員となつた、氏資性英敏にして奇才に富み其秀でたる手腕力量と先見の明は宜く事業を順境に導き信用益々厚く商運大に榮へ名聲隆々として今日に至つた、令閨との間に二女を擧げ一家四人、家庭圓滿、常に春風に滿つ、現住所大阪市南區北炭屋町九番地

縣市政の功勞者

鳥居楠之助君

氏は明治廿五年京都醫學專門學校を卒業するや直に廣島縣立病院に入り、同院に研究すること一年半仝廿七年和歌山縣立病院仝三十一年大阪市立病院に歷任し仝三十三年仝院を辭して歸鄉し和歌山市有田屋町に南海病院を創立したが仝卅四年現住所たる北新五丁目に轉して今日に至つた、氏の開業するや氏の德望と技倆とを慕ひて施療を乞ふもの雲集し門前常に市をなすの盛況を呈した、明治四十一年鐵道院囑托醫となり今尙其職にある、公職としての際して再選し仝十年更に市會議員に再選議長に擧げられ、仝年和歌山醫師會長に推された其間縣市政のため盡瘁する事甚大にして今や縣市民の信望最も厚し、氏は那賀郡東貴志村亡父的場孫左衛門氏の二男に生れ令閨安子夫人は氏の鄉里岡山甚兵衞の長女にして共に鳥居家を相續した、長男俊夫氏は早稻田大學商科大學を卒業し目下京阪電氣鐵道和歌山支店に在職中である

氏は大正二年市會議員に擧げられ仝四年更に縣會議員に當選仝六年市會議員の改選行はるゝや引續き當選し市參事會員に互選せられた仝八年の縣會議員の改選に

294
279

大正十四年十二月二十日印刷
大正十四年十二月廿五日發行

非賣品

著者　小畑芳太郎
發行者　和歌山市小野町三丁目廿二番地　小畑芳太郎
印刷者　和歌山市小松原通七丁目二番地　百合川梅一
印刷所　和歌山市小松原通七丁目二番地　明文堂印刷所

發行所　和歌山市小野町三丁目廿二番地　貴紳錄發行所

終